

## 【中学校・福祉体験活動】

# 地域社会と結びついた福祉体験活動

綾部市立東綾中学校

### 1 取組のねらいや内容

#### (1) 取組のねらい

ア 地域社会の現実や課題を直視しながら、新たな地域社会作りを展望できる豊かな人格の基礎を育成する。

イ 聴覚言語障害者福祉施設「いこいの村」や舞鶴朝鮮初中級学校との交流を通して異文化や障害のある人たちへの理解を深め、豊かな心の育成を図る。

#### (2) 取組の概要

ア 活動の名称

豊かな体験活動

イ 実施学年

第2学年 1学級23名（全校生徒70名）

ウ 活動内容

(ア) 福祉体験活動 聴覚言語障害者福祉施設「いこいの村」における交流・福祉体験

(イ) 異文化理解 舞鶴朝鮮初中級学校との交流

(ウ) 発表・交流会 文化祭における取組の発表と交流

(エ) 地域における体験活動 保育園・幼稚園での福祉体験や地域の多様な文化への理解を深める活動

#### エ 取組の経過

「いこいの村」とは施設創立以来20年にわたり、交流を続けてきた歴史がある。当初は、生徒会代表の訪問など一部生徒による交流でスタートし、内容・方法を変えながらとぎれることなく今日まで続いてきた。この間、平成5年度からは、全校生徒による訪問を実現し、また、生徒の発達や理解の状況を考慮し、学年に応じた福祉体験や交流の内容を工夫するなど、常に新たな取組に挑戦している。

更に、平成12年度には、本校文化祭に初めて「いこいの村」の仲間を招待して「仲間たちも分かって楽しめる文化祭」を目標に、手話による司会や説明、OHPによる演劇の台詞の補助など、生徒の思いや工夫を生かした取組を行ってきた。「いこいの村」との交流は、本校教育の重要な柱となっており、今後とも継続していきたいを考えている。

当該学校との交流は、平成11年に2年生が訪問したり、生徒会代表が訪問したりして始まった。また、本校文化祭には当該学校の中学生のほか、小学生も招待して互いの文化を発表し合った。その後、両校生徒と一緒に「いこいの村」を訪問し、ともに作業を行ったり交流したりする「トライアングル交流」へと発展し、今日に至っている。

#### オ 教育課程上の位置付け

(ア) すべての活動は、教育課程の中に位置付けて行う。

(イ) 主に「総合的な学習の時間」を活用し、一部、教科や特別活動として実施するものもある。

#### カ 活動場所

- (ア) 本校 年間を通しての主たる活動の場所は本校であり、舞鶴朝鮮初中級学校の生徒や「いこいの村」の仲間を招いて交流や保護者・地域の方々を含めた発表会なども行う。
- (イ) 聴覚言語障害者福祉施設「いこいの村」 交流や体験の場としてお世話になっている。
- (ウ) 舞鶴朝鮮初中級学校 生徒が訪問し、交流を行う。
- (エ) その他 地域内の保育園・幼稚園や文化遺産などを訪問し、見学・調査する。

## 2 活動の概要

### (1) 舞鶴朝鮮初中級学校訪問

#### ア 事前指導

##### (ア) 校外学習

2年生は、春の校外学習を行うに当たり年間の体験学習を見通し、諸活動の基礎となる仲間意識を高めたり、集団活動のルールや訪問の際のマナーを確認したりする機会と位置付け、京都市内における班活動を行うこととした。また、見学・体験先として朝鮮・韓国の文化や歴史的関係にふれることのできる場所を取り入れた。

##### (イ) 朝鮮文化・歴史の理解

舞鶴朝鮮初中級学校を訪問するにあたり、互いの歴史的関係や文化を学んだり市内に残る「日朝友好の碑」の建立の経過を調べたりする活動を通して事前指導を行った。

#### イ 訪問

9月20日、2年生は、学年全員が舞鶴朝鮮初中級学校を訪問し交流会を持った。朝鮮学校の生徒数は3学年で10名と人数・学年には若干の差はあるが交流する上で支障はなかった。

過去3年間の交流の歴史はあるものの、2年生にとってはこれまで当該学校生徒と直接話をする機会はほとんどなく、訪問も初めての生徒ばかりであった。

最初は、お互いの緊張感をほぐすためいくつかのゲームを行い、その後、男子はチャンゴ、女子はカヤグムの演奏を教えてもらった。

#### ウ 生徒の感想

朝鮮初中級学校を訪問して 2年 女子  
 男子とはあまりしゃべれなかったけど、2年の女子とはメールアドレスも交換できたし、いっぱいしゃべれたので良かったです。カヤグムをはじめてやって指が痛くなったけど、面白かったです。最後に、みんなで演奏してくれたのがすごくきれいですごいなぁと思いました。しっぽとりは、日本とちがうやり方だったので、はじめはびっくりしたけど楽しかったです。すごく短い時間のように感じました。でも、すごく楽しい時間でした。10月にも、いっしょにいこいの村に行くのでその時もみんなで仲よくしたいです。



ゲームで親近感を深める



楽器の練習を通して交流

## (2) 「いこいの村」訪問

### ア 事前指導

「いこいの村」については、すでにほとんどの生徒が訪問し、仲間との交流の経験も持っている。2年生として、舞鶴朝鮮初中級学校の生徒と一緒に活動や交流ができることを中心に指導した。

自己紹介が手話を用いてできること、また、遊びを通しての交流では、様々な手段で気持ちが伝えられることを目標とした。

### イ 訪問

10月11日、当該学校の生徒とともに「いこいの村」を訪問し、まず、「いこいの村」の重要な販売製品である縄に関する作業を体験した。縄の材料となる藁を準備する作業や出来上がった縄を仕上げる作業など「いこいの村」の仲間の指導を受けながら取り組み、その後交流会を持った。交流会では手話による自己紹介やゲームを行い、コミュニケーションをとることの難しさを感じながらも互いの理解を深め合うことができた。

### ウ 生徒の感想

いこいの村を訪問して 二年 男子  
10月11日、僕たちは朝鮮学校の人たちと、いこいの村へ行きました。そこで、農業グループとなわグループに分かれて農作業をしました。なわづくりでは、わら選び2種類とひげきりとわらそぎという作業をしました。わら選びの作業は一本一本はさみで切ったり、きれいになったわらを15本選んでいこいの村の仲間へ渡すというものでした。大変根気のいる作業で、毎日されているのがすごいと思いました。また、いこいの村の仲間からやさしく教えてもらえよかったです。ひげきりの作業は編んだわらからはみ出ているわらを切るというものでした。一つ仕上げるのにすごく時間がかかりました。細かい作業で大変だったけど、楽しかったです。そして、作業が終わった後、短い時間だったけれど遊び交流をしました。内容は『はんかちとり』と『おじゃみ』と『あっちむいてほい』でした。ルールを説明するのが大変だったけれど、分かってもらえたときはうれしかったです。また、遊ぶ中で、うれしそう顔をしてくれると、こっちまでうれしくなってきました。いこいの村の中にはとてもうまい人もいてびっくりしました。今年の交流は朝鮮学校の人たちと一緒にいき、去年とは違う形で交流できたし、遊び交流もできて、作業では見られなかった一面を見られて良かったです。



縄用の藁を準備



手話を用いて自己紹介



ゲームを通して交流

### (3) 文化祭における交流

#### ア 文化祭テーマ

生徒会実行委員会が提案した今年のテーマは「つ・な・ぐ」。東綾中学校、舞鶴朝鮮初中級学校、いこいの村、そして地域をつなぎ、昨年よりさらにステップアップした交流を目指したいという思いを表現したものであった。

#### イ 文化祭の実施

11月2日、舞鶴朝鮮初中級学校の生徒を招待し、「いこいの村」からの参加も得て、文化祭を開催することができた。本校からは、合唱や演劇・人形劇等の発表を行い、当該学校からは小学生の舞踊や中学生による民族楽器の演奏の発表があった。また、「いこいの村」での体験・交流については、両校生徒がともに感想を発表し合った。

フィナーレは、和太鼓を演奏する音楽ユニットをむかえ、その演奏に東綾中の和太鼓、当該学校の民族楽器が加わり、最後は参加者が輪になって踊り、大きな盛り上がりを見ることができた。



舞鶴朝鮮初中級学校生徒による演奏



様々な楽器が加わった踊りの輪

### 3 学校支援委員会の組織・運営

(1) 名称 東綾地域心の教育連絡会議

(2) 組織 校区内の自治会連合会、公民館、民生児童委員会等各種団体の代表及び教職員で構成

#### (3) 活動内容

ア 豊かな体験活動の趣旨理解を図るため、保護者や地域の方々を対象とした講演会を開催し、活動に対する理解を深めるほか、体験に関わる情報交流の場とする。

イ 役員を対象とした研修会を開催する。

### 4 推進地域としての取組

(1) 名称 豊かな体験活動推進地域協議会

(2) 組織 本事業に参画している小・中・高等学校の校長及び行政の担当者と構成

(3) 活動内容 各校の計画を把握し、校種間の連携により本事業の円滑な推進を図る。

### 5 活動の成果

- ・ 様々な体験活動により地域の人々・福祉施設・異文化等への生徒の理解や関心が高まった。
- ・ 障害のある人たちや福祉活動に対して関心を持ち、優しい気持ちで他人に接することのできる生徒が増えている。
- ・ 学校外の人々とのコミュニケーションのとり方など、社会性の向上がみられる。

### 6 今後の課題

- ・ 生徒個々の希望に合った体験活動の在り方を追求し、体験の質を高める。
- ・ 体験と教科等の学習とが相互に働き合うような体験内容とするための工夫改善を進める。
- ・ 体験や交流のために事前の準備や指導を分担し合える校内体制の整備を進める。